

# 令和6年度第1回

## さっぽろ連携中枢都市圏ビジョン懇談会

### 会 議 録

日 時：2024年7月22日（月）午後1時30分開会  
場 所：TKPガーデンシティPREMIUM札幌大通  
カンファレンスルーム7D

## 1. 開 会

○事務局（玉井公民・広域連携推進室長） 出席者の皆様全員がご着席しておりませんけれども、定刻となりましたので、ただいまから令和6年度第1回さっぽろ連携中枢都市圏ビジョン懇談会を開催いたします。

皆様におかれましては、ご多忙のところ、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

会長選任までの間の進行を務めさせていただきます札幌市まちづくり政策局公民・広域連携推進室長の玉井と申します。この4月に着任いたしまして、さっぽろ連携中枢都市圏のことを所管させていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

では、初めに、札幌市まちづくり政策局長の浅村からご挨拶を申し上げます。

○浅村まちづくり政策局長 札幌市まちづくり政策局長の浅村でございます。

令和6年度第1回さっぽろ連携中枢都市圏ビジョン懇談会の開催に当たりまして、一言、ご挨拶を申し上げたいと思います。

本日は、お暑い中、そして、お忙しい中、ご足労をいただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃から札幌市政に関して特段のご理解とご協力を賜りまして、この場を借りて深く感謝申し上げますところでございます。そして、さっぽろ連携中枢都市圏ビジョン懇談会の構成員を快く引き受けていただきまして、本当にありがとうございます。

さっぽろ連携中枢都市圏は、2019年3月に形成いたしまして、札幌市を含む圏域内の12市町村が一丸となり、様々な連携した取組を行いながら、魅力や活力あるまちづくりを推進しているところであります。昨年度をもちまして第1期ビジョンの取組期間が満了となりましたが、本懇談会構成員の皆様から貴重なご意見をたくさんいただき、第2期ビジョンを策定し、本年3月に公表いたしました。

第2期ビジョンにおきましても、第1期から引き続き、住みたくなる、投資したくなる、選ばれるさっぽろ圏域を目指すことといたしまして、圏域が直面いたします人口減少、少子高齢化の急速な進展やデジタル化、そして、脱炭素化といった社会情勢の変化にも対応してまいりたいと考えてございます。

本日は、第1期ビジョンの最終年度であります2023年度の取組の効果検証についてご説明をさせていただき、さっぽろ圏のさらなる発展に向けまして、それぞれのご専門の分野から貴重なご意見を頂戴できればと考えております。

限られた時間ではございますが、今後のさっぽろ圏の発展に向けまして忌憚のないご意見を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

簡単ではございますけれども、私からのご挨拶とさせていただきます。

今日はよろしくお願いいたします。

○事務局（玉井公民・広域連携推進室長） 大変申し訳ございませんが、浅村は、この後、公務によりまして退席させていただきますので、ご了承方、よろしくお願いいたします。

○浅村まちづくり政策局長 よろしく申し上げます。

○事務局（玉井公民・広域連携推進室長） それでは、これから議事を進めてまいります。  
皆様のお手元にごございます資料の確認をいたします。

まず、次第、さっぽろ連携中枢都市圏ビジョン懇談会構成員名簿、座席表のほか、資料1のさっぽろ連携中枢都市圏ビジョン懇談会設置要綱、資料2のさっぽろ連携中枢都市圏2023年度評価指標の達成状況（確定版）、資料3のさっぽろ連携中枢都市圏の連携事業の実施状況について、資料4のさっぽろ連携中枢都市圏関連スケジュール、最後に、参考資料としまして、さっぽろ連携中枢都市圏2023年度連携事業実施状況等一覧（確定版）をお配りしてございます。

以上の資料について不備がございましたらお申出をいただきたいと思いますと思いますが、よろしいでしょうか。

続きまして、本懇談会の目的です。

資料1としてお配りしておりますさっぽろ連携中枢都市圏ビジョン懇談会設置要綱第1条に規定しておりますとおり、連携中枢都市圏ビジョンに関して必要な協議や懇談を行うことが目的でございます。本懇談会でいただいたご意見等を通じ、よりよいビジョンにしたいと考えておりますので、何とぞよろしくお願いいたします。

なお、本日の懇談会につきましては10名のご出席をいただいておりますので、要綱第6条第3項に規定する定足数を満たし、会議が成立していることをご報告いたします。

## 2. 構成員のご紹介

○事務局（玉井公民・広域連携推進室長） 続きまして、構成員の皆様をご紹介いたします。

初めに、新たにご就任をいただきました構成員の方々からご紹介いたします。

株式会社北海道銀行地域創生部次長の佐々木聡一様です。

公益社団法人北海道観光機構事業企画本部副本部長の生川幸伸様です。

一般財団法人さっぽろ産業振興財団IT産業振興部長の村椿浩基様です。

続きまして、任期満了に伴い、継続してご就任をいただきました構成員の皆様について、事務局の左側から時計回りでご紹介させていただきます。

NPO法人e z o r o c k代表理事の草野竹史様です。

一般社団法人北海道バス協会常務理事の今武様です。

環境省北海道地方環境事務所次長の田村努様です。

札幌市立大学名誉教授の中原宏様です。

北海道大学大学院経済学研究院教授の平本健太様です。

社会福祉法人北海道社会福祉協議会地域福祉部長の前田裕二様です。

小樽商科大学大学院商学研究科名誉教授李濟民様です。

また、本日はご欠席でございますが、一般社団法人札幌市医師会地域医療部長の尾形和

泰様、株式会社北洋銀行執行役員公金・地域産業支援部長の越田雄三様、北海道商工会連合会組織経営支援部広域支援課長の佐々木健雄様、北海道農業協同組合中央会総合企画室室長の高橋信行様、一般社団法人北海道商工会議所連合会政策企画部次長の立藤雄大様、イオン北海道株式会社執行役員経営管理統括部環境・社会貢献・広報・I R部長の玉生澄絵様にご就任をいただいているところでございます。

事務局は私、玉井と課長の紺野で、本日の会議の進行を補佐いたしますので、よろしくお願いいたします。

### 3. 会長・副会長の選任

○事務局（玉井公民・広域連携推進室長） 続きまして、本懇談会の会長と副会長の選任を行いたいと思います。

資料1のさっぽろ連携中枢都市圏ビジョン懇談会設置要綱第5条第1項の規定におきまして、構成員の皆様の互選により会長及び副会長を置くこととしてございます。

どなたかご推薦のある方がいらっしゃいましたら、挙手の上、ご発言をお願いいたします。

○中原構成員 このビジョン懇談会のこれまでの実績を踏まえますと、会長には平本様、副会長には李様をご適任であると考えます。

○事務局（玉井公民・広域連携推進室長） ありがとうございます。

ただいま、会長には平本様、副会長には李様というご推薦がございましたが、皆様、いかがでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○事務局（玉井公民・広域連携推進室長） ありがとうございます。

ご異議がないようでございますので、平本様に会長、李様に副会長を引き受けていただきたいと思います。

それでは、平本様、李様は会長席、副会長席にお移りいただければと存じます。

〔会長、副会長は所定の席に着く〕

○事務局（玉井公民・広域連携推進室長） それでは、会長、副会長から一言ずつご挨拶を頂戴できればと思います。よろしくお願いいたします。

○平本会長 今、互選で会長に選任されました北海道大学の平本でございます。よろしくお願いいたします。

先ほど、浅村局長から、住みたい、そして、投資したい、人が集まる圏域というご説明をいただきましたけれども、それに向けて、札幌市だけではなく、圏域としてこのエリアが発展していくために構成員の皆様方には忌憚のないご意見を出していただきまして、実りある審議ができるよう努めさせていただきたいと思いますので、ご協力のほど、どうか

よろしくお願い申し上げます。

○李副会長 ただいま、副会長としてご指名をいただきました小樽商科大学の李と申します。

今、会長がおっしゃったとおりですが、北海道は札幌市の周辺にもいろいろと顔ぶれの違う市町村がたくさんあります。これらの特徴をうまく連携することがこの会議の使命なのかなと思っていますので、うまく連携しながら新たな特徴をさらに出していけるよう、皆さんのお知恵をいただきながら進めたいと思います。よろしくお願いいたします。

○事務局（玉井公民・広域連携推進室長） ありがとうございます。

それでは、ここからの議事進行は平本会長にお願いしたいと存じます。

よろしくお願いいたします。

#### ４．議 事

○平本会長 それでは、早速、次第４の議事に入りたいと思います。

本日の議題は一つで、さっぽろ連携中枢都市圏における連携事業の実施状況等についてです。

この内容について事務局よりご説明いただきました後、構成員の皆様方からご発言をいただきたいと思います。

それでは、事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局（紺野推進担当課長） それでは、早速、資料に基づき、さっぽろ連携中枢都市圏における連携事業の実施状況についてご説明させていただきます。

まず、資料２をご覧くださいませでしょうか。

こちらは、連携中枢都市圏ビジョンに掲げている評価指標の２０２３年度の達成状況を示した資料です。

まず、上の表は、全７６個の評価指標についての昨年度末時点の達成状況を記載しております。７６個のうち、二重丸の達成済みが５２指標となりまして、全体の約７割を占める結果となっております。

続きまして、下段は、三つの役割における重要業績評価指標、いわゆるＫＰＩについてです。表の右から２番目の列をご覧くださいなのですが、実績値（参考値）となっております。参考値とさせていただいておりますのは、２０２３年の数値のうち、現時点で集計できていないものがあるからでして、実績値については秋頃に何らかの形で皆様に改めてご報告させていただければと考えております。

なお、表には現時点の最新値を入れてございますが、第１期ビジョン期間中は、新型コロナウイルス感染症の影響なども受けまして、いずれも未達成という見込みです。今後取り組む第２期ビジョンにおいて、目標値達成に向けてさらなる連携の深化や新たな取組の構築を目指していきたいと考えてございます。

本資料の説明は以上でございます。

次に、各事業の実施状況について、資料3を基にご説明させていただきます。

なお、A3判のほうが詳細な資料になるのですが、分量も多く、時間の関係もありますので、適宜、ご覧いただき、今回はA4判横の資料でご説明させていただきますので、そちらをご覧いただけますでしょうか。

表紙をおめくりいただき、1ページですが、圏域全体の経済成長のけん引の分野です。

まず、上段の創業の促進ですが、取組の一つとして、圏域で抱える行政課題、あるいは、地域課題をスタートアップ企業との協業により解決を目指すプロジェクトとして「Local Innovation Challenge HOKKAIDO」を実施しておりますが、昨年度は、採択されたプロジェクトのうち、連携中枢都市圏全体に関わる採択が1件、南幌町関連のものが1件、新篠津村関連のものが1件ございました。

資料の右側に写真がありますが、こちらは新篠津村の事例です。昨年にオープンしたしんのつ天文台で、星空の鑑賞を妨げずに来場者の安全やエスコート対策を行うため、写真の下のように載っているのですけれども、3D立方体の蓄光素材を使った誘導灯を設置する実証実験を行ったもので、北海道としては初の導入事例と聞いております。また、資料にはございませんが、現在、南幌町でも遊休地をキャンプ場として活用する実証実験を実施していると聞いております。

続きまして、下段の新製品・新技術の開発のための支援についてです。

令和6年度は、ものづくり開発・グリーン成長分野推進事業において、小樽市の企業が1件、千歳市の企業が1件、採択されてございます。また、小規模企業向け製品開発・販路拡大支援事業において、小樽市の企業が1件、恵庭市の企業が1件、採択されております。

1枚おめくりいただいて、次に、上段でございしますが、人手不足に向けた支援ということで、こちらは昨年度から新たに追加した事業となります。

事業の概要といたしましては、圏域内の中小製造業における人手不足を支援するため、省力化や自動化に資する取組に対する補助を実施するほか、女性の受入れに向け、女性が働きやすい環境づくりに取り組む企業に助成をするというものです。

実施状況ですが、製造拠点省力化機器導入促進補助事業において、小樽市の企業が3件、千歳市の企業が1件、恵庭市の企業が1件、採択されております。また、女性就職促進助成事業において、千歳市の企業が1件、採択されております。

右側の写真は小樽市の事例でございまして、容器包装資材販売の商品情報を自動印字化するために補助金が使われております。

続きまして、下段の共同プロモーションや観光資源の活用等の推進をご覧ください。

こちらは、圏域市町村で構成するさっぽろ連携中枢都市圏観光協議会におきまして、観光振興に資する取組を企画立案し、ツーリズム連携等の戦略的な共同プロモーション事業等を実施するものです。

事業の実施状況ですが、令和5年度につきましても、台湾市場をターゲットに、台湾人

のインフルエンサーが圏域の観光地巡りやグランピング体験等を一般の台湾人の方の旅行者と一緒に体験し、その様子をフェイスブックで発信する事業のほか、台湾の台北市で開催された旅行博に圏域の七つの自治体が出展し、現地の方に圏域の魅力を直接発信する事業などを実施したところでございます。

1枚おめくりいただき、次に、高次の都市機能の集積・強化の分野です。

まず、丘珠空港の利用促進です。

こちらは、丘珠空港が持つ観光、防災、医療等の支える機能を圏域の活力向上に生かすために、丘珠空港の利用促進に向けた丘珠空港路線やアクセス等の空港関連情報の周知活動等を行う事業内容になりますが、令和5年度につきましても、イベントの実施やメディア、SNSの活用、連携市町村への周知依頼等による丘珠空港の関連情報の周知活動を実施いたしました。

なお、令和5年度の丘珠空港の利用者数ですが、新規路線の開設や新規航空会社の参入等により、目標値の29.8万人を大きく上回りまして、43.9万人となりました。

1枚おめくりいただき、4ページの圏域全体の生活関連機能サービスの向上の分野です。

一つ目は、公立夜間中学の共同活用についてです。

事業概要といたしましては、圏域における多様な学びを支える環境の充実を図るため、様々な理由により学び直しを希望する方を対象市とした公立夜間中学の共同活用を行うものでございます。

令和4年4月に北海道初の公立夜間中学として札幌市立星友館中学校を開校しました。令和5年度は、小樽市で2名、江別市で2名、千歳市で1名、恵庭市で3名、北広島市で2名の合計10名の方に在籍していただきました。

続きまして、下段の圏域外からの移住促進についてです。

こちらは、さっぽろ圏として道外に対して圏域の魅力を情報発信するものです。

令和5年度は、東京の秋葉原で移住フェアを行いました。圏域の11市町村が参加し、181名の方にご来場をいただいたところでございます。

1枚おめくりいただき、5ページ上段のさっぽろ圏人材育成・確保基金の造成についてです。

こちらは、ふるさと納税制度の活用などにより、さっぽろ圏の人材育成・確保の基金を造成するものです。個人や企業からの寄附を合わせまして、令和5年度につきましては1億円強の金額を造成しているところでございます。この基金は、さっぽろ圏奨学金返還支援事業や子どもの芸術体験でありますK i t a r aファースト・コンサート事業、周産期救急医療に関する研修などの実施に活用しております。

下段の鳥獣対策等に関する取組の推進です。

こちらは、ヒグマその他の鳥獣対策に関する広域的な取組を行うものですが、昨年度の実施状況としましては、職員向けのヒグマ及びエゾシカ研修を5月に開催し、連携市町村の職員の方にもご参加をいただきました。また、環境省との連携事業としまして、ヒグマ

の問題個体の把握体制構築のためにDNAサンプル採取等を実施しているところでございます。

1枚おめくりください。

ここからは、第2期ビジョンでの新たな取組についてご説明させていただきます。

まず、圏域の共同PRについてです。

今年2月から、圏域の11市町村で連携し、ふるさと納税制度を活用した旅先納税の運用を開始しております。こちらは、北海道観光機構様にもご協力をいただきながら、さっぽろ圏の参加市町村のいずれかに寄附をすれば、参加市町村の加盟店ならどこでも利用できる電子ギフトが発行されるもので、圏域の周遊促進を目的に導入いたしました。7月1日現在で加盟店が300件ほどございますが、今後も寄附者にとって魅力のある加盟店づくりなどを行い、利用促進のためのPRを実施してまいりたいと考えております。

続きまして、下段の若者の出会い創出についてです。

結婚を希望する若者等への支援としまして、今月1日にさっぽろ結婚支援センターの事業を開始したところでございます。こちらは、AIを備えたマッチングシステムなどにより婚活サービスを提供するオンラインの結婚支援センターとなります。入会登録の対象者を圏域市町村在住・在勤または移住対象者としており、広報等における連携のほか、各市町村における出張登録会・相談会などの実施も検討しております。

1枚おめくりいただき、7ページ上段の当別町リモート相談窓口の利用促進についてです。

昨年度もこちらの懇談会でお伝えをさせていただきましたが、令和5年10月に札幌市役所本庁舎に当別町のリモート相談窓口を設置いたしました。これにより、当別町から札幌市へ通勤、通学されている方も平日の日中に役場への相談をすることが可能になりました。

今後は、この窓口の利用を促進するほか、取組状況を圏域市町村とも共有し、圏域の住民の利便性向上につながる取組を検討してまいりたいと考えてございます。

最後に、下段の地域コミュニティアプリのピアZZの導入についてです。

こちらは、各市町村の地域コミュニティや圏域住民同士の交流を活性化するため、今年5月から圏域の6市町村で連携してピアZZというアプリを導入したところです。6月末時点の登録者数は3,000人を超えておりまして、地域情報の交換やイベント情報の発信等に活用されております。

以上が主な取組状況でございます。

続きまして、資料4についてご説明をさせていただきます。

こちらはスケジュールですが、ビジョンについては、毎年度、所要の変更を行う旨、国により定められておりまして、上段に記載がございますように、本日の懇談会でいただきましたご意見のほか、11月に開催しております関係市町村の首長会議における協議結果等も踏まえ、今後、来年度に向けた変更を行ってまいりたいと考えております。



そのほか、圏域市町村において実務者会議も定期的に開催しておりまして、連携市町村間の課題の共有や情報交換を行っています。また、札幌市役所庁舎内におきまして、副市長を筆頭とする推進本部をはじめとしまして、さっぽろ圏の発展に向けた取組の推進を図ってまいりたいと考えてございます。

○平本会長 それでは、ただいまご説明をいただきました評価指標の達成状況、実施状況、今後のスケジュール等につきまして、構成員の皆様方より、ご質問やご意見など、ご自由にご発言いただきたいと思いますので、お願いいたします。

どなたでも結構ですので、ご発言をお願いいたします。

○李副会長 資料2の達成事業のことです。

バツになっている達成不可の主な事業として三つが挙がっていきまして、MICE、そして、DXを利用した住民サービス向上、あるいは、森林整備と書いてあるのですが、この達成状況はどういう段階なのか、全く達成不可なのか、それとも、かなりのレベルまでは進んでいるのか、いかがでしょうか。

○事務局（紺野推進担当課長） 各項目によってばらつきはあるのですが、例えば、MICE誘致の促進や森林整備等については、取組を構築することを指標として掲げておりました。その検討は進んでいるのですけれども、残念ながら、構築に至らなかったという状況でして、第2期ビジョンにおいても引き続き検討し、何らかの結果を出したいと考えているところでございます。

もう一つのデジタル技術を活用した住民サービスの向上に向けた取組の推進はアプリの登録者数を指標に掲げていましたが、達成しなかったという状況です。そこで、既存のアプリの周知を図るほか、先ほどご説明したピアZZという新しいアプリも周知し、住民サービスの向上に向けた取組を進めていきたいと考えております。

○李副会長 最後におっしゃったデジタル技術を活用した住民サービスの向上のための取組というのはかなり大事な取組だと思いますので、ぜひ引き続き進めていただければと思います。

○平本会長 ほかにいかがでしょうか。

○田村構成員 一つ確認したいことがあります。

まず、今回の評価というのは、実績が目標値に対してどのくらい達成しているかという評価を二重丸や四角、バツとしていると思うのですが、そもそも、このビジョンの目標を達成すべき期間は毎年としているのでしょうか。つまり、目標値を毎年クリアしているという評価なのか、それとも、ビジョン期間の数年間のうちに目標を一度でも達成できたという評価なのでしょうか。

○事務局（紺野推進担当課長） 進捗状況は毎年確認することになっていきますが、今回は第1期の最後の期間になりますので、第1期の最終結果となっております。

○田村構成員 例えば、目標値を達成したものについては、それ以上の政策努力をしなくてもいいのか、また、評価がバツだったものについては、今後は重点的に取り組んでいく

など、そういう取組方針はあるのでしょうか。

○事務局（紺野推進担当課長） 多少、前後してしまうのですが、昨年度に第2期ビジョンについてご議論をいただいたときに、中間の評価にはなりますけれども、ある程度、こうなるという見込みの評価に対するご意見をいただき、その反省点も踏まえて第2期ビジョンを策定しております。総論としましては、今までの取組の反省も踏まえ、今年度から取り組んでいる次のビジョンをつくっておりますので、よかった点や悪かった点を踏まえて今年度以降の取組を進めてまいりたいと考えております。

○田村構成員 この評価を次の取組にどう反映するのか、どう踏まえるのかが気になりました。評価の在り方、あるいは、評価がよくないものに対し、今後、どのぐらいの期間で取り組んでいくのか、今回の評価を次のビジョンにうまく反映すべきと考えます。

○平本会長 今の話は重要なことですよね。評価が次のビジョンに反映され、その実施状況がよくなることが、評価をする意味だと思いますので、今、田村構成員がおっしゃられたことはとても大事なご指摘だと思います。ぜひ、そういうことを反映していただきたいと思います。

ほかにはいかがでしょうか。

○生川構成員 事務局からお示しをいただきました第2期のビジョンでの新たな取組ということで、先ほどもありましたが、手前どもとさっぽろ連携中枢都市圏が連携してやっていることについて少しご説明させていただければと思います。

資料3の6ページの上段になります。

ふるさと納税は皆さんも既にご存じだと思うのですが、旅先納税というものがあります。認知度はまだ低いものになりますが、旅中、旅前に、通常のふるさと納税と同じようにスマートフォン上で寄附をしていただいて、地場産品の返礼品が電子クーポンになるという仕組みです。

通常ですと、一つの自治体に寄附をするのが一般的なルールになっていると思うのですが、京都府の北部において、2021年に、同じような枠組みの7市町の自治体で、電子ギフトを共通の返礼品として、旅をした方に宿泊や飲食、体験をしてもらえるというものがあることを聞いて、昨年、さっぽろ連携中枢都市圏にご相談をさせていただき、今年2月にスタートさせていただきました。

昨年、返礼品の地場産品の基準について、例えば大阪府泉佐野市の加工肉の問題など、いろいろとあって厳しくなっておりまして、ご多分に漏れず、広域の返礼品についても同様にかなり厳しいお達しが出てきておりますが、それも踏まえながら取組を進めているところです。

札幌、小樽、千歳というのは観光客の入り込みが非常に多いのですが、それ以外の自治体というのは道外からいらっしゃるお客様の入り込みが思いのほか少ないことがよく分かりました。お客様にこの地域を何とか回っていただけるような施策を我々も展開していきたいと思っていますので、皆さんもご協力をいただければと思います。

○平本会長 これに千歳市が入っていないのには何か意味があるのですか。

○生川構成員 千歳市は既に単独で旅先納税を行われているのです。システム上やろうと思えばできるのですが、既にやっている手前、その整合性がお客様に少し分かりづらい、事業者へ説明しても混乱するということで、見送られております。

○平本会長 ただいま、こういう制度も始まっているというご案内をいただきましたが、ほかにはいかがでしょうか。

○李副会長 大変すばらしい取組をありがとうございます。

ここに加盟店 300 件と書いていますけれども、今おっしゃられたとおり、観光地である札幌や小樽、千歳以外のところにどれだけ加盟店があるのか、教えていただけますか。

○生川構成員 300 件のうち、8 割弱が札幌市内になっています。小樽が 20 件ぐらいあるのですが、それ以外は 1 桁というのが実情です。実際にこの 2 月から始めて、データを取ってみますと、やはり、同じ比率であり、札幌で使われているというのが実態です。

また、実際に使っている方は旅中で寄附をされているパターンが非常に多いというデータが出ていまして、今月の初めに東京の番組で 1 度取り上げていただいてから寄附が少しずつ増えてきてはおります。

○李副会長 恐らく予測どおりかなとは思いますが、先ほど話したように、この地域は様々な顔ぶれといいますか、特徴のある市町村がたくさん集まっていますので、例えば、道の駅や地域の特売所など、様々なところを観光客にもっと利用してもらってもいいのかなと思っていたのですね。そういうところではポイントがちょっと高くつくなど、もう少し工夫されたらもっといいのかなと思ってお聞きしました。

○平本会長 加盟店の問題もそうですし、旅先納税ということなので、魅力的な観光スポットでこういうものがより多く利用できるようになると広がっていくのだろうと思います。

ほかにはいかがでしょうか。

○今構成員 これは札幌市及び近郊のまちが圏域として発展するようなビジョンを考えようということで始まったものかと思います。少し暗くなってしまうので、そういう中であまり話をしたくなかったのですが、バス協会、バス事業者の実情についてお話しします。

まず、路線バスと貸切バスの事業者がおりまして、全道にある 200 弱の会社のうち、半数超えが北海道バス協会に加盟しています。過ぎたことですが、令和 2 年から 4 年までのコロナ前とコロナの最中の運賃収入は、路線バスと貸切バスの両方を合わせて 769 億円の減収になっています。路線バスは、そのうち 437 億円で、貸切バスは 332 億円です。これは、協会員の減収の数字です。輸送人員は、昭和 44 年と今を比較すると 8 割減少しています。

今、新聞報道でいろいろと報道されているのが運転手の不足の話です。

平成 5 年に北海道のバス協会員の運転手の数が 8,000 人を超えていたという最高峰の時期がありますが、毎年 9 月末の協会員の概要調査によりますと、去年は 5,417 人

というのが路線バスと貸切バスを合わせた数字になります。

先ほどの数字で比較すると、平成5年9月末で8,024人いて、路線バスと貸切バスを合わせて6,295両が動いていたわけですが、去年9月末の数字では運転手が5,417人に減っており、動いている車両も路線バスと貸切バスを合わせて5,100台に減っています。

運転手の確保については広告し、各協会員で採用に取り組んでおりますし、バス協会としてもそれぞれの地域で合同採用説明会などにも取り組んでおりますけれども、辞めていく数をオーバーする採用数になっていません。

例えば、この前、駒岡線をやめるという新聞記事が出たばかりですが、地域住民の生活や暮らしを守るための路線バスの確保が大変厳しい状況になっていますので、最大の問題は運転手確保ということでご報告だけさせていただきます。

○平本会長 深刻な問題だと私自身も受け止めております。

さっぽろ連携中枢都市圏でこういう取組があると運転手不足の問題が少しいいほうに向かうというようなことは何かございますか。このビジョン懇談会が最初に立ち上がったときにバスのことでよく問題になっていたのは、市やまちの境界を越えると、路線バスが行き来できなくなって、路線バスの設定が不合理になっているというようなご指摘があったかと記憶しているのです。そういったことも含め、今構成員のお立場から、こういうところがもっとよくなると今の問題に少し歯止めがかかるというようなことがあれば、ご提言をいただけると大変ありがたいです。

○今構成員 あまり助言するような立場にはありませんけれども、札幌を除き、釧路や旭川など、各地方都市の路線バスの場合は、国や自治体から補助金を入れてもらい、赤字を埋めるようなことで何とかバスを走らせています。

それから、勤務時間と賃金についてです。バスは朝から晩まで動きますので、休憩時間を入れたとしても実際の拘束が長く感じるということがありますが、それなのに、給与・賃金の面では他産業と比べて低いのです。

札幌市内の3社のうち、中央バスは既に運賃申請をしておりますが、12月1日の実施に向けた運賃申請をして、運転手の給与を上げるための対策を取っています。

地方はというと、バスの補助金というのは一定人数が乗っていないバスには補助をしません。平均して5人を下回るような路線バスの系統には国も自治体も補助を出さないのです。したがって、地方のバス路線会社というのは、手続をして運賃を上げたいのですが、乗車密度が5人を下回ると逆に補助金が減るという悪循環に陥っているのです。運賃を上げて人が乗らなくなればマイナスになる、国や自治体等の補助金が切られるということとで悩んでいる状況です。

それはそれぞれの経営者の判断にはなりますが、どちらにしましても、バスの運転手というのは、地域の人暮らしと生活を守る、または、観光産業を守るための貸切バスの確保という意味でも大変重要だと思っております。それを強調しつつ、若い人たちにバス運

転手になってもらうことを訴えていきたいなと思っています。

一方で、高齢化も進んでいます。今60代の運転手が10年後には70代になりますけれども、そうした方々が一気に辞めていくとまた大変な状況になるのではないかとというのが現状です。

○平本会長 ほかにいかがでしょうか。

○草野構成員 どこにコメントをしたらいいか、悩みながら聞いていたのですが、今のお話を聞いていても、さっぼろ連携中枢都市圏としては、この地域全体にどう価値を生んでいったかが非常に大きな指標だと思っています。

参考としてお伝えすると、私の団体は事務所が中島公園の近くにあるのですが、連携中枢都市圏では一番離れたところの石狩市浜益区に第2拠点を構えておりまして、人口が1,000人で高齢化率60%です。北海道は課題先進国・日本の未来の姿と度々言われておりますけれども、私の関わっている地域はさらにその先端にあるということです。しかし、この地域に一つ変化を生み出すことができれば、それをいろいろな地域に波及させられるのではないかとということで、地域の方々もいらっしゃいますので、実証実験と言うとちょっと失礼な言葉になってしまいますけれども、そういう可能性も含め、浜益で取り組んでいます。

今の交通の話もそうですが、鳥獣対策等に関わり、果樹園の支援にこの1か月間ぐらいずっと行っていたのですが、大変な状況になっています。まず、エゾシカが過去になかったぐらい石狩のほうに出てきていまして、サクランボやリンゴの被害があります。冬にかなりやられていまして、果樹園はとてもダメージを受けている状況です。

もう一つは、気候変動です。今年、山形のほうでもサクランボがかなり影響を受けているというニュースを聞いているかと思いますが、石狩の果樹園でも同じように3週間ほど早くなってしまうのです。そう意味では、今年は今までとは全く状況が違う年になってしまっております。

そうしたこともあり、札幌の大学の授業等と連携して、実習先として若者をそうした地域に送り込むということをやっており、年間で数百人となっています。そういうことをしたからか、地域の人たちの受入れも上手になってきましたし、担い手が少なくなっていく地域のマンパワーとして期待されていますし、実績として移住する者も出ています。ただのお試し体験ではなくて、実際に中に入って参画していつているのです。

この手の関係人口や地域づくりの事業の課題と考えていることもあって、例えば、担い手が不足する地域や産業に対し、いろいろな取組をして若者が来るようになった、いろいろな企業も来るようになったけれども、担い手は誰もいないという事例が出てきているのも事実なのです。

つまり、体験をしましょう、企画をしましょうという事業はいっぱい増えてきているのですが、本当にマンパワーとして活躍できているケースが増えているかという点、非常に表面的なものばかりなのです。その結果、受入れ地域側が疲弊していくということ

が起きているのも事実です。

都市部にいる人材をこの地域の中でどう動かしていくか、動くような仕組みをつくっていくかがますます重要になってきているなと思っています。特に、この数か月は見たことのないような、去年とは全く違う状況になっていまして、私も今年はかなり焦りながらやっているような状況です。

その上で、連携中枢都市圏に期待することについてです。

北海道の中で若者が一番いるのがこの地域になりますけれども、大学生、そして、企業にいる20代の人材について、地域の中で育てていくということをやっている方がいいのではないかと考えています。とにかく、10代、20代の若手の育成を広域で行っていくことが重要な視点になってくるのではないかなと思っています。というのも、どこかで囲い込む必要はもうないと思うのです。大学も企業もそこだけで人を育てるという視点ではなく、この地域の中でとにかく人を動かしていくということがかなり重要になってきているのではないかと、フェーズがちょっと変わったなというような危機感もありましたので、お話しさせていただきました。

○平本会長 先ほどの実施状況報告で圏域外からの移住促進が挙げられていたのですが、これもまさにそうですね。例えば、札幌市は札幌市で移住促進の取組をやっているのですが、札幌を選んでもらうか、石狩を選んでもらうか、千歳を選んでもらうかという話ではなく、この圏域全体で人をどう受け入れるかだと思います。今、草野構成員がおっしゃったように、圏域全体にいる若者たちをどうするかということです。とどまってもらうということを言う必要はないのかもしれないですけども、圏域の中でうまく活力として使えるかが重要なポイントになると思いますし、そういった事業がこの中に入ってくると望ましいということになるのだと思います。

では、中原構成員、お願いします。

○中原構成員 前回か、あるいは前々回の会議の資料だったと思うのですが、市町村職員へのヒアリング結果がありました。その中で、さっぱり連携中枢都市圏に対する認知度が低かったという記憶があります。恐らく、その背景には、連携中枢都市圏全体としての成果が分かっても、内部の構造が見えにくいことがあるのではないかと考えています。

そこで、連携中枢都市圏として一体化することによるメリット、あるいは、各市町村が演じた役割、相互の連携の形などが分かるような記載をされていると、その成果がより伝わりやすくなるという気がします。

例えば、このA3判縦の参考資料ですが、一覧になっており、本当に詳しく分かります。一番右側の欄に実施状況等とありますが、各事業に関わった市町村の名前、あるいは、具体的に市町村がどんな特徴や特色を持って関わったのかがこの中に記載されていると、連携中枢都市圏に参画している市町村の個々の役割が見えてくると思います。

この表では、事業によっては市町村名など具体的な記載もあるのですが、もっと強調されてはいかがでしょうか。

○平本会長 今の中原構成員のご意見に対して事務局から何かコメントはございますか。

○事務局（紺野推進担当課長） ご意見をありがとうございます。

おっしゃっていたのは、圏域の住民懇談会を実施する上で、商工会議所や社会福祉協議会など、関係団体の方に連携中枢都市圏のことをヒアリングしたものかと思うのですが、ご指摘のとおり、認知度が低いというところはあったかなと思います。

市町村の関わりをもう少し見ることのできるような工夫はさせていただきたいと思います。今後の参考にさせていただきます。

○平本会長 ほかにいかがでしょうか。

○李副会長 皆さんからご意見をいただいたとおり、12市町村の連携をどのような形でちゃんと形にするか、あるいは、もっと効果的に活用するか、いろいろな案が出たと思いますが、一つ提案をさせていただければと思います。

例えば、参考資料の39番に圏域内農産物の消費促進という項目がありまして、下のさとらんどの実績で言うと、圏域の特産物のPRをされているということです。

私は、さとらんどの運営コンソーシアムに関わってまして、せっかく、これだけ違う市町村が集まっていますし、様々な特産物がそれぞれの地域にありますので、それらを集めて、さとらんどを利用した展示、販売までやったらどうかという話が会議で出ました。つまり、地域のそれぞれの特徴ある生産物を集めたイベントを開くというアイデアです。

これは農産物だけでなくでもいいと思うのです。例えば、食品加工品もたくさんありますよね。それぞれが出せるものを出し合って、さとらんどで、数日、展示会みたいなものをやりながら、特産物をお互いにPRしながら販売するという取組ができればいいのかなと思ひまして、提案をします。

○平本会長 今のは魅力的なご提案かなと思いました。

李副会長のお話を伺いながら思ったのですが、例えば、今日は中央会の方がいらっしゃっていないので、残念ですが、規格外のはねものの野菜が圏域の中で出たときは子ども食堂に無料で送る、あるいは、先ほどの展示会のご提案についてもそうで、値段がつかないものといひますか、形が悪くてもこんなに味はいいでしょうということをきちっと分かってもらって、フードロスに対する消費者の意識を少し向上させるなど、いろいろとありそうな気がするのです。

アイデアは幾つでもあると思いますし、そういったことを圏域でやることによって、魅力が増すといひますか、掛け算になるような、そういう事業がこのリストの中にたくさん入ってくると、まさに連携中枢都市圏の意味合いが出てくるのかなと思ひながらお話を伺ひました。

また、冒頭の評価のところでデジタル技術を活用した住民サービスの向上に向けた取組の推進の達成度が十分ではないというお話がありましたよね。アプリの登録者数が指標になっているというお話だったのですけれども、指標が本当にそれでいいのかと思ひます。アプリの登録者数が少ないのは、アプリそのものの出来があまりよくないからなのかもし

れないし、アプリでできることが十分ではないからかもしれません。

ですから、デジタル技術を活用した住民サービスの向上に向けて、やることが何で、それを何で評価するのか、これは、連携中枢都市圏にかかわらず、行政全般の指標評価に関わる問題だと思うのですが、そういうことを検討していただいて、意味のある評価をしていくことが重要なのかなとお話を伺って感じました。

村椿構成員、デジタル担当のお立場からご発言はありませんか。

○村椿構成員 今、会長がご指摘のポイントをちょうど私も考えていたところです。

I Tといっても、ツールではなく、それを使ってどういう情報を出すかが非常に大事ななと思っています。広域で何か取り組むといったとき、住民から湧き出るような情報やニーズについて、もう少し頻度高く、そして、深掘りした情報を見られるようになればと思っています。

例えば、先ほどの農産物についてもそうです。今どき、札幌の近郊の直売所等で随分と出ています。地元こういう直売所があって、こういうものを売っていますというチラシなどは、その地域、そのまちの中では出ていますけれども、隣町までは届いていないのです。でも、我々の行動圏というのは、江別、恵庭、千歳、札幌など、車を使って30分ぐらいで移動できるところまであり、直売所巡りをされているような方もたくさんいらっしゃるのです。そういった情報がまちの中だけで完結するのではなく、さっぽろ圏域の身近なチラシのような情報も見られるようにする、それが今の時代に合ったI Tの使い方だと思います。ただ、それは必ずしもアプリではなくてもよくて、既存のSNSでも十分だと思うのです。でも、情報を出す仕組みをもう少し工夫してみるということです。これは、先ほど副会長からもお話がございましたけれども、住民の認知度にも関わってくるのかなと思います。

こういう広域圏の仕組みといいますか、取組の形としては大事ですけども、さっぽろ圏に住まわれる住民の方にこういう取組をやっていることを認知していただくという意味でも、住民ニーズに沿った取組をもう少し増やしていくほうがいいのかと感じています。

○平本会長 まさにそうですね。

一つの自治体の枠の中で完結しないように、この圏域で情報が共有できること、そして、それが住民ニーズにきちっと合っているということの大切さを指摘していただきました。

ちなみに、先ほどご説明のあった地域コミュニティーアプリのピアッツァはそういうようなことも共有できるのですか。

○事務局（紺野推進担当課長） 登録市町村で共有できる仕組みでございます。

○平本会長 分かりました。

問題でもないのですが、これを導入しているのが12市町村のうちの札幌から南幌までの六つぐらいで、ほかの地域はほかの地域で別のものを使っているから、相乗りになっていないということですよね。

○事務局（紺野推進担当課長） そのとおりです。



皆さんからいただいたように、圏域としてどんな情報が有効なのか、また、平本会長がおっしゃっていたように、指標としてそれが適切なのかも含め、引き続き研究させていただければと思います。

○平本会長 よろしく願いいたします。

ほかにお気づきのこと、お立場とは直接関わり合いがなくても、こうしたら連携中枢都市圏がもっと盛り上がるのではないかと、あるいは、投資したくなる圏域になるのではないかなというようなジャストアイデアでも構いませんので、ぜひご発言をいただければありがたいと思いますが、いかがでしょうか。

○草野構成員 A3判資料の評価のリストを見たとき、いろいろな事業がリストアップされていますけれども、どこの市町村を対象としているものなのかが分からないなと思ったのです。

例えば、昨年度は2市町村でやっていたものが3市町村になりましたというのはいい話ですね、連携が拡大しましたねというふうに言えると思うのですが、この表だとKPIが数値目標になってしまっているのか、広がっているのか、広がっていないのか、連携という観点での広がりが見えないなと見ていて思っていました。

物によってはそれが表現しづらいものもあるのではないかなと思うのですが、それは見せたほうがいい指標になりそうだなと思いました。

○平本会長 連携が拡大していくことが見えるような指標がいいのではないかなというご提案でしたが、何かコメントはございますか。

○事務局（紺野推進担当課長） 来年度以降というか、資料の体裁については研究させていただきたいと思います。

言い訳と言ったらあれですけども、状況をご説明します。物によっては各市町村を対象として募集していて、例えば、昨年度は3市町村から回答があったけれども、同じく対象にしつつも、今年度は手が上がらなかったというものもあります。そうしたものは表にすると難しいところでして、どうすると分かりやすいのかも含め、研究させていただければと思います。

○平本会長 ものづくり開発・グリーン成長分野推進事業では小樽や千歳の事業者が採択されたと先ほどはありましたが、これは公募なので、毎年、どんどん増えていく保証は全然ないと思います。ただ、広く門戸を開いているということが重要ですし、さらに、従来、札幌だけを対象にしていたら入ってこなかったような面白い技術を持っている事業者がその中に入ってくるということに意味があると思うのです。

一方的に増えていくものだけではないということは分かるのですが、こういった連携がうまく機能しているということが見えることが大事だと思いますし、逆に、どういう分野は連携が進まないのかが見えてくると、どういう事業が有効なのかを考えるきっかけにもなるというご趣旨でのご発言かと思いました。

第1期が終わり、第2期に入るところまで、5年ぐらいいろいろとやってきたわけです。

けれども、事務局としては、連携中枢都市圏の事業の中で、これは連携したからやっぱり成果が上がったというのは何だったのですか。

先ほど、連携中枢都市圏でやることにより、どういうメリットがあるのかが見えるほうがいいのではないかというご指摘を中原構成員からいただきましたよね。これは個々の自治体ではできなかったけれども、連携中枢都市圏をつくったから成果として上がったというもので、公立夜間中学はその一つではないかなと思うのです。札幌だけでやっているのではなく、実際に多くの市町村から生徒が通ってこられているので、いい取組だと思うのですが、確かにこれはいいねというものとしては何があるのでしょうか。

そういう成功事例といいますか、そういうものをアピールしていけるといいなという趣旨でお尋ねしております。

○事務局（玉井公民・広域連携推進室長） 今、会長がおっしゃった公立夜間中学はまさにそうかなと思います。

さらに、救急医療や妊産婦の関係のものがあります。札幌市でも産科が大分減ってきていますけれども、まだ残っているということで、出産前の方に対応する救急需要も当然あって、一定程度慣れている人間はいますが、そういうものが少ない市町村は経験が少ないということがあります。そこで、札幌と一緒に研修することで、ほかの市町村で同じような事態が起きても対応できるようになり、札幌との連携も図れるということはあるかと思っています。

救急部門は命に関わることで、広域的な連携を非常に重視しているところがありますし、連携中枢都市圏という仕組みがあることで原局としては動きやすくなっているのではないかなと思っています。

○平本会長 そういう顕著な改善事例がだんだん積み重なっていくといいなと思いますので、ぜひいい取組をとと思います。

例えば、高次の都市機能の集積・強化で丘珠空港の利用促進とありますが、丘珠空港はとても大事なリソースだと私は思っています。滑走路の300メートル延伸はほぼ決まっていると思うのですけれども、それ以上延ばせないのは高さ規制があるからだというふうに聞いています。その一方で、都市に隣接した福岡空港では、福岡市長がものすごく馬力のある方で、国交省に掛け合って高さ制限を特例的に緩和させたという事例があるとも聞いております。

もちろん、地域住民の方の騒音問題などはきちっと考えなくてはいけないと思うのですが、丘珠空港を圏域の第2空港として有効活用するためには、さらなる延伸、つまり、2,000メートルまでの延伸によって、160人から170人乗りのボーイング737やA320などが通年運航できる体制をつくることはとても重要だと思いますし、加えて、QICを整備し、アジア近隣諸国からの観光客を呼び込むということもあり得ると思うのです。

そのことが、札幌市だけではなく、圏域全体の魅力度を高めることにもつながると思う

ので、そういう重要なリソースについてはとことんしゃぶりつくせるような活用の仕方をぜひ積極的に考えていただけるといいなと思っています。

ついでに言いますと、これは私が「けいナビ」という番組でしゃべったのですが、今、MICEについては、中島公園のホテルの改修と併せ、札幌市の計画が動いていると思います。しかし、本当にあそこがベストなのかは考えていただきたいと思っています。丘珠空港につくるもよし、北大の敷地内につくるもよしで、いろいろな選択肢があると思うのです。コロナで頓挫したことがある意味幸いだと考えていただいて、もうちょっと面白い、しかも、長い目で見たときに、経済性だけではなく、魅力度を高めるような計画であってほしいなと個人的には思っています。

これは単なる感想でございます。

皆様方、いかがでしょうか。何かございますか。

○李副会長 今、会長がお話ししましたように、1期目の5年間のこれという実績は何だろうと考えてみたら、これといったものが思い浮かばなかったのです。様々な取組をして、改善もして、KPIも達成しているのですが、課題先進地であるにもかかわらず、それを解決するための奇抜な、といいますか、これだけ多岐にわたって特徴ある自治体が集まって連携しながらも、妙案がなかなか出ないところがちょっと歯がゆいなと思っています。そして、2期目の私たちの宿題はそこにあるのかなと思います。

今、北海道というのは、食と観光以外にも、DXとGXを融合し、それを金融特区として新たな投資を呼び込むみたいなことも言われていますよね。皆さんとしても今すぐにアイデアは出せないかもしれないですが、次回以降は、それぞれの分野において、今までは取り組めなかったけれども、こういうサポートを得られるとできるのではないかというものについて、ぜひ未来志向的に考えられたらなと思いました。

○平本会長 とても前向きで、このビジョン懇談会がちゃんと機能するための重要なお提言だと思います。我々構成員としてもそれを心に留める必要があるかなと思いました。

加えて申すなら、これも私は大分前から言っていたつもりですが、このビジョン懇談会の構成メンバーの男女比についてです。男性ばかりで、女性はお一人しかいらっしゃらないのです。それから、李副会長と草野構成員を除かれると、ほとんどが札幌の方なのです。ビジョン懇談会なので、都市圏を構成する他の市町村にゆかりのある方々もお入りになっていいのかなと思いますし、そうして多様性を増すことが会議の活性度を高めることになるかもしれません。今すぐということではなくてもいいので、徐々にそういった方向にすることも検討していただけると、今、李副会長がおっしゃったように、このビジョン懇談会がもっとよくワークするような方策になり得るのかなと思いました。

ほかにご発言があればいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○平本会長 本日は随分とご発言をいただきましたし、建設的なご提言もいただきましたので、こういったことを事務局において検討していただいて、今後の事業、そして、連携

中枢都市圏がよりよいものになるように進めていただければと思います。

それでは、これで審議は終了とさせていただきます。

最後に、事務局より今後のこと等についてご発言があればいただきたいと思います。

○事務局（玉井公民・広域連携推進室長） 会長、ありがとうございました。

今日は、様々なご意見を頂戴いたしました。資料のつくりの問題から本質的なお話、それから、この圏域は、札幌を中心としながらも、特徴のある農業や工業が中心というところもあり、結構バラエティーに富んでいるところもございますので、そこをどうやって生かしていくかが1期目の課題であったかなと思っています。それについては、試行錯誤も入ってくると思いますけれども、今日もいろいろなヒントをいただきましたので、それも含めて検討させていただき、今後とも進めていけたらと考えてございます。

この後の11月の首長会議も含め、来年度に向けた動きがあり、懇談会の皆様にはご意見を頂戴する機会が出てくると思いますが、よろしくお願いします。

## 5. 閉 会

○平本会長 それでは、予定されていた時間より少し早いですが、以上をもちまして今回のビジョン懇談会を終了させていただきたいと思います。

皆様方、どうもありがとうございました。

以 上